

前回課題解答例

別紙の論文を読んで、

- (1) 同一の概念を別の用語で表現しているところ、
- (2) 文章表現が多義的なところ
- (3) 文章に飛躍があるところ

を摘発せよ。

- (1) 同一の概念を別の用語で表現しているところ

用語のリスト	出てくる個所の段落番号
「日本」「わが国」	
「他の先進工業国」「欧米(諸国)」「アメリカ?」	
「結婚退職型」「結婚後無職」	
「労働力供給」「労働供給率」	
「人的資本を形成するチャンス」「企業内訓練」	

- (2) 文章表現が多義的なところ

内容	段落番号
「学歴はその双方に対し」 意味上は「代替効果と所得効果」だが 文法上は「経緯」にかかる	
「そのような傾向」 「学歴は既婚女性の労働供給を促進する」傾向か? 「学校教育の.....機能により.....促進する」傾向か?	
Goldin の発見はどこまでか ・ アメリカの傾向のみ? ・ アメリカとヨーロッパの傾向? ・ 学校教育の社会化機能まで? ・ 学歴と代替効果・所得効果との相関関係まで?	

- (3) 文章に飛躍があるところ (下線部)

内容(推定)	段落番号
<p>“ 出産・育児が初期キャリア形成時期に重なるため、女性は企業内訓練を受けさせてもらえない。<u>このため学校で身に付けてきた人的資本を職場で発揮できない。このことが、日本女性の退職率に学歴の効果があらわれない原因である。もし企業内訓練を女性に与える職場があったなら、高学歴女性の退職率は低くなるだろう</u>” というのが Brinton の説。</p> <p>これに対して Higuchi は “実際に女性に企業内訓練を与えている職場を調べてみたが、高学歴の女性の退職率は別に低くはなかった” といって反証を提示している。</p>	
<p>なぜ少数派のことが問題でないのかが書いてない。</p> <p>“ (19xx) の研究から、一生に一度も就業を経験しない女性は少数派になっていて、大部分の女性は学校卒業後にいったんは働いている、ということがわかっている。<u>一方で私は、~という理由で、人口の大部分を占める人々の問題を優先的に研究対象にとりあげたいと思っ</u>ている。そこで本研究では、学校卒業後にいったん働きはじめた女性のうちどれだけの人が働きつづけるのかということ</p>	